

(別紙様式3)

2019年3月27日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所	島根県松江市殿町1番地
管理機関名	島根県教育委員会
代表者名	教育長 新田 英夫

2019年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和元年 5月30日(契約締結日)～ 令和2年 3月31日

2 指定校名・類型

学校名 島根県立平田高等学校
学校長名 坂根 昌宏
類型 地域魅力化型

3 研究開発名 地域人材育成循環システム「平田プラタナスプラン」の構築

4 研究開発概要

生徒が地域での成功体験を積み上げ、将来的に地域で活躍したいという思いを育むことを目指している。具体的には、以下の3つのテーマに基づき地域協働学習を行う。

① 地域ブランドの創出

- ・地域資源の活用により、今ある資源の価値を再発見し、新しい価値を創造する
- ・地域ブランドの創出のノウハウとそのためのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
- ・生徒が将来地域ブランドの創出に関わる仕事がしたい、または、地元で起業して新しい産業を生み出したいという意欲を育てる。
- ・地域ブランドを次々と創出していくことができる地域人材を育成する。

② 多文化共生社会の推進

- ・多文化共生社会の推進に関わるノウハウと、そのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
- ・同じような手法によって、多様な文化を持つ人々が住みやすい街づくりを進める。

③ ファン人口・交流人口の増加策

- ・観光振興のノウハウと、そのカリキュラム開発手法を地域および高校に定着させる。
- ・観光客向けの飲食店が増えるなど、産業が活性化する方法を考える。
- ・地域の資源を活かした街づくりに積極的に関わる人材を育成する。

5 教育課程の特例の活用の有無 なし

6 管理機関の取組・支援実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コンソーシアム会議		1回						1回				1回 (中止)
運営指導委員会				1回				1回				1回 (中止)
教育魅力化推進事業	校長会		教員研修		生徒研修	校長会		校長会	中間発表会		成果発表会	
明日のしまねを担うキャリア教育推進事業（経費支援）		講演会			インターンシップ		インターンシップ	交流会				
高校魅力化コンソーシアム先導モデル創出事業				研修会							研修会	研修会 中止
高校魅力化評価システムの構築	魅力化事業校調査				フィードバック	魅力化非事業校調査			フィードバック		全校長研修	
コンソーシアムへの伴走	県担当者の伴走、次年度予算獲得											
島根県立大学との連携								交流会			情報交換会	

(2) 実績の説明

コンソーシアム会議	教員によるカリキュラム開発状況説明を受け、それに対してコンソーシアム構成団体からの助言を受けた。特に新規事業である「平田ウィングバスツアー」については、取組のねらいや取組後の地域協働事業全体へのフィードバックについての研究を深めるよう指摘された。
運営指導委員会	コンソーシアム会議と同様に、各取組の目的やねらいを明確にしておくよう指摘された。また、事業指定以前から行っている名古屋研修旅行の位置付けや地域協働事業との関係性を明確にしておくことも指摘された。さらに、国の指定事業であることから、事業の成果を数値などで「見える化」しておくことを念押しされた。また、平田高校ならではの特徴的なカリキュラム作りへの期待の声があった。
教育魅力化推進事業	地域との協働体制構築に向け、教職員研修会や校長会での説明及び研修会、立地市町村との対話を行った。また、地域課題解決型学習等の探究的な学びについて、生徒及び教職員対象の研修会や各校の課題解決型学習、課題研究、マイプロジェクトの発表会を実施した。 次年度に向け、事業をスクラップし、新たな「教育魅力化人づくり事業」として、よりコンソーシアムの活動が推進される事業にビルドするための予算獲得を行った。あわせて、次年度から県教委に探究学習指導主事の新規任用を行い、各校の探究学習推進担当者の設定及び研修を実施し、小・中学校で行う「ふるさと教育」とのつながりを持ちながら、探究的な学びの推進と深化を目指す。
明日のしまねを担う キャリア教育推進事業	「働くことを学ぶ」「学びを活かす」ための各校の教育活動に対して、活動費の支援を行った。 また、地域で働く人や学ぶ人との交流会の設定、キャリア・パスポートのモデル事業を実施した。次年度に向け事業をスクラップし、新たな「教育魅力化人づくり事業（上述）」として、よりコンソーシアムの活動が推進される事業にビルドするための予算獲得を行った。
高校魅力化コンソーシアム 先導モデル創出事業	コンソーシアム構築モデル校を指定する県事業により、実施体制構築や教育課程の開発、探究活動のノウハウなどを、合同研修会、成果発表会などを実施して成果を共有した。
高校魅力化評価システムの 構築と実施	「社会に開かれた教育課程」の要素を定量的に把握するためのシステムを構築し、生徒と地域へのアンケートを実施し、検証シートを作成。シートを学校経営に活かす研修を校長会で実施した。 次年度も県内全高校生と各地域の大人へのアンケートを行い、非認知能力の育成や学びの土壌のあり方を検証する。
コンソーシアムへの伴走	県教育委員会のスタッフを中心にコンソーシアムを支援する「伴走者」を設定し、年間を通して課題の解決のための支援を行った。また次年度のコンソーシアム運営及び事業のための予算獲得を行った。
島根県立大学との連携	島根県立大学と包括協定を締結し、教育分野での相互連携協力を行った。

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
カリキュラム開発 等専門家との協働 研究	3回	2回	3回	2回	2回	3回	2回	3回	2回	2回	2回	1回 (中止)
地域協働学習実施 支援員との協議	3回	2回	3回	2回	2回	3回	2回	3回	2回	2回	2回	1回 (中止)
2年生 地域協働学習 班別探究活動			1回	8回	課外	4回	4回	2回				
1年生 研修旅行前後学習 班別探究活動、情報				5回	課外	2回 + 1回	5回					
1・2年生 個人探究活動									1回	3回	3回	1回
3年生 個人探究活動	2回	3回	2回	3回								

(2) 実績の説明

①研究開発の内容や地域課題研究の内容について

学年	4月～7月	8月～11月	12月～3月
1年生	職業人講演会 地元企業ガイダンス 学部学科ガイダンス 班別探究活動	地元企業調べ 班別探究活動 名古屋研修旅行 平田ウィングバスツアー 地域協働フォーラム秋	地域と高校生の未来を語る会 個人探究活動 地域協働フォーラム春 ※中止
2年生	地域フィールドワーク 大学教員による講演会 班別探究活動	班別探究活動 島根県立大学 学生ゼミナール参加 地域協働フォーラム秋	地域と高校生の未来を語る会 個人探究活動 地域協働フォーラム春 ※中止
3年生	個人探究活動 地元中学校での キャリア学習成果発表会 地元インターンシップ	地域協働フォーラム秋	特別講座 地域探究 (進路決定者)
卒業生 等		大学生向けまちづくりワーク ショップ(8月)	

上記学習活動における探究的な学びの視点プロセスにおける系統性・構造的性について

	1年	2年	3年
探究の段階	知る、学ぶ	協働する、深化する	発展する、継承する
地域にイノベーションを起こす手法についての探究	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業ガイダンス ・名古屋研修旅行(前後学習含) ・職業人講演会 ・地域協働フォーラム秋 <p>さまざまな職業や学問、技術、文化に触れることで、自分自身の興味関心の幅を広げる。また、起業家や研究者の挑戦意欲を自分自身にも取り入れる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と高校生の未来を語る会 <p>●個人探究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域協働フォーラム春 <p>自分自身の興味関心の幅や進路観を広げる。</p>	<p>◆班別探究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島根県立大学学生ゼミ参加 ・地域協働フォーラム秋 <p>地域で活躍する方々の多様な考えを取り入れて、地域活性化策を検討する。また、地域活動での成功・失敗体験を積み上げ、地域を愛する気持ちを醸成する。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と高校生の未来を語る会 <p>●個人探究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域協働フォーラム春 <p>地域活性化や社会貢献意識を含めた進路意識を高める。</p>	<p>●個人探究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・志望理由書作成 ・地元中学校での成果発表 ・地域協働フォーラム秋 <p>地域のために貢献する将来像を描き、それを実現するためのプロセスを創る。また、3年間の自分自身の経験を中学生(次世代の高校生)に継承していく。</p>
地域資源を活かす手法についての探究	<ul style="list-style-type: none"> ・平田ウイングバスツアー <p>普段訪れることのない平田地域の海岸部や農村部へ行き、地域のもつ魅力や資源を再発見する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大学教員の講演会 <p>◆班別探究活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生向けまちづくりワークショップ^o <p>地域資源を活かした地域活性化策を提案・実行していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別講座「地域探究」 <p>地域資源を主体的に発見する。</p>

※1月末提出の実施状況報告書に「個人探究活動」を記載していなかったのは、(1)に記載すれば(2)には記載する必要がないと理解していたため。また、(1)の時間数については記入漏れ。いずれについても追記した。

②地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

- ・総合的な探究の時間(各学年1単位)を中心に、各教科・科目や特別活動などを連動させる。

③地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

- ・カリキュラム開発専門家の知見を得て、総合的な探究の時間での学びを基盤に、各教科において地域との協働を学びに取り入れた授業研究を行い、地域の方にも参観案内し、次のとおり研究授業を実施した。教科横断的な学習づくりについて、「どのようにしたらよいかわからない」「難しい」という意見が多発し、授業者にとって挑戦的な取り組みとなった。

- ・ 題材横断的な内容を構成することに加え、育成したい能力、例えば「質問する力」や「意見をまとめる力」などの能力育成を教科横断の共通目標として開発することができた。

教科 (連携科目)	内容
国語 (地歴・総学)	出雲国風土記を読み、古代の郷土の様子や地勢等を知る
地歴公民 (総学)	ブラジルの歴史 (多文化共生社会の推進との関連) 中世・近世の雲州平田の流通 (ファン人口・交流人口の増加策との関連)
数学 (総学)	データの分析 観光客数や交流人口の考察 あずきの成分分析と対数グラフの活用
理科 (総学)	地域で見つけた「生物基礎」
保健体育 (総学)	交通事故の現状と要因 (地元と全国の比較)
芸術 (総学)	校歌に唄われる地域と高校との結びつきについて
英語 (美術・家庭・総学)	色の視覚的効果と心理的効果～キャッチコピーの提案～ フードマイルズ～地産地消 or 食品輸入～
家庭 (総学)	食育講座 ～島根県立大学看護栄養学部との協働授業～
情報 (公民・総学)	発表資料作成のための情報リテラシー能力育成 (文書、表計算、プレゼン) 1年生研修旅行の振り返り NIE講座の実施、まとめ新聞の作成 主体的な学びの質を高めるクラウド型学習支援システム「Classi」の活用

④ 類型毎の趣旨に応じた取組について

地域魅力化型の趣旨は、地域課題解決に関わるカリキュラム開発と、地域ならではの価値を創造する地域人材の育成である。これまでも授業や特別活動の担当者ごとに地域との連携を行っていたが、今年度は本事業に指定されたこともあり、地域住民の関心や意欲も高く、これまで以上に地域からの協力を得ることができ、より組織的・発展的に取り組むことができた。

また、地域の方から「もっと生徒の活動に関わりたい」という要望をいただき、新たな企画を追加で立ち上げることになった。

一方で、観光客の取り込みを図ろうとする生徒たちの考えと、定住者の日々の生活を守りたいという地域の思いに相違点が見つかるなど、地域の魅力化というカリキュラムが奥深く多くの可能性を秘めたテーマであることを発見できた。

⑤成果の普及方法・実績について

月日	名称	実績
10/21	平田地域コミュニティセンター長会	2年生多文化共生班の成果発表 2年生7名が発表
10/23	出雲市長と語る会	2年生多文化共生班の成果発表 2年生7名が発表
11/13	平田高校・地域協働フォーラム2019秋	2年生班別探究活動の成果発表 2年生157名全員が発表

11 / 16	しまね大交流会（松江市）	2年生班別探究活動の成果発表 2年生の代表4班（20名）参加
1 / 15	地域学校 WINWIN プロジェクトフォーラム（埼玉県）	地域協働事業全体の成果発表 2年生の代表4名が参加
1 / 16	埼玉県立浦和高等学校での発表（埼玉県）	地域協働事業全体の成果発表 2年生の代表4名が参加
2 / 8	しまね探究フェスタ（松江市）	地域協働事業全体の成果発表 2年生の代表4名が参加
3 / 10 ※中止	平田高校・地域協働フォーラム2020春	1・2年生個人探究活動の成果発表 1・2年生319名全員が発表

8 目標の進捗状況，成果，評価

(1) 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

昨年度に本県の一部高校で実施された「高校魅力化アンケート」の結果をもとに、本校の状況及び事業内容に照らして成果目標を設定した(①)。

今年度初めて本校でも同アンケートを実施したが、その結果は、肯定的評価の割合や他校との比較により本校の課題を明確にするもので、本校および地域の実情を的確に示唆していた。

これらの項目は、本事業の成果としても目標とすべき内容であると考え、成果目標を任意で追加(②)して事業を実施し、より詳細に成果を検証したいと考える。

①事業開始前の設定目標

項目	今年度目標値	今年度の実測値 (2月)
現状を分析し目的や課題を明らかにすることができる	生徒：61%	生徒：77.7%
問題意識を持ち、聞いたり調べたりすることができる	生徒：62%	生徒：74.4%
自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めることができる。	生徒：63%	生徒：68.1%
自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	生徒：83% 大人：82%	生徒：92.5% 大人：89.5%
自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	生徒：63% 大人：55%	生徒：68.9% 大人：36.6%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦することができる	生徒：67% 大人：67%	生徒：66.7% 大人：61.4%▼
地元中学生の入学志願割合	24%	21.6%▼
将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	生徒：50%	生徒：78.9%
将来、自分の今住んでいる地域で働きたいと思う	生徒：50%	生徒：64.5%
地域で生徒を育てるという意識を持っている	大人：77%	大人：86.0%
立場や役割を超えて協働している	大人：70%	大人：68.4%▼

②事業開始後に任意で追加した設定目標

項目	今年度目標値	今年度の実測値 (2月)
自主的に調べものや取材を行う (主体性)	生徒：68%	生徒：75.8%
本音を気兼ねなく発言できる (主体性)	大人：61%	大人：62.5%
日本や世界の課題の解決方法について考える (社会性)	生徒：36%	生徒：57.8%
学習を通じて、自分がしたいことが増えている (探究性)	生徒：70%	生徒：77.5%
勉強したものを実際に応用してみる (探究性)	生徒：57%	生徒：64.8%
複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ (探究性)	生徒：33%	生徒：50.9%
自分を客観的に理解することができる (探究性)	生徒：63%	生徒：68.9%
国や地域の担い手として、政策決定に関わりたい (社会性)	生徒：33%	生徒：54.4%
私に関わることで、社会状況が変えられると思う (社会性)	生徒：39%	生徒：54.7%
将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい (社会性)	生徒：59%	生徒：69.3%
地域文化や暮らしを、自らの手で伝えたい (社会性)	生徒：50%	生徒：71.1%
地域に尊敬している・あこがれている大人がいる (挑戦の連鎖を生む「安心・安全の土壌」)	生徒：46%	生徒：63.7%
将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる (問う・問われる「対話の土壌」)	生徒：73%	生徒：70.7%▼
いま住んでいる地域の行事に参加した (社会性)	生徒：40%	生徒：26.7%▼
地域社会などでボランティア活動に参加した (社会性)	生徒：32%	生徒：22.7%▼
先生、保護者以外の地域の大人と何気ない会話を交わした (社会性)	生徒：55%	生徒：65.0%
この学校に入ってよかったと思う (満足度)	生徒：80%	生徒：85.7%
失敗してもよいという安心・安全な雰囲気がある (挑戦の連鎖を生む「安心・安全の土壌」)	生徒と大人の差 30%	生徒と大人の差 21.0%
本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある (問う・問われる「対話の土壌」)	生徒と大人の差 49%	生徒と大人の差 19.2%

【生徒について】

おおむね今年度目標値を超える結果ではあったが、探究性、社会性、挑戦意欲が低いことがわかった。改善に向け次の取り組みを行う。

- ・ 各教科・科目をはじめ、学校教育活動全体における探究的な学習をさらに推進する。
- ・ 各教科・科目の学習や名古屋研修旅行などを通じて地域外・県外からの視点を学び、グローバル意識の向上を目指す。
- ・ 主体的な学習者としての成功体験を積み上げて、高い目標に挑戦する意欲を高める。
- ・ ボランティア活動への積極的な参加を促す。
- ・ 1年生1学期からの主体的な学習機会を確保する。

【大人について】

自分の思いを表出しにくく、挑戦意欲に欠けていることがわかる。失敗を恐れず新しいことに積極的に挑戦しようとする意識を、校内外で共有していく必要がある。改善に向け次の取り組みを行う。

- ・ 事業をとおして「育てたい生徒像」について意見を出し合い、それらの共通部分を見いだすことによって、教員同士、教員と地域の方々との生徒育成の理解を深める。
- ・ 定期的な教員研修を行い、さまざまな研究開発に挑戦使用とする意欲の向上を図る。
- ・ 地元中学生に対する本校の魅力発信の方策を検討する。

目標値と実測値について、教職員と生徒の実感とあわせて検証していくこととする。

(2) 地域人材を育成する高校としての活動指標 (アウトプット)

項目	今年度目標値	今年度の実測値および評価
地域協働学習ワーキングチームの会議実施	12回	実績12回 計画通り実施
地域協働学習授業担当者会議の実施	12回	実績12回 計画通り実施
各教科の研究授業回数	14回	実績14回 計画通り実施
キャリア教育推進委員会の実施	3回	実績 3回 計画通り実施
先進校としての研究発表回数	6回	実績 7回 計画以上に実施
1クラスあたりの図書館を利用した「教科・科目」の授業数	15時間	実績19時間 目標以上に実施

(3) 地域人材を育成する地域としての活動指標 (アウトプット)

項目	今年度目標値	今年度の実測値および評価
授業に関わった外部人材人数	8人	実績50人 予定より大幅に多くの方の参画を得た。
発表会来場者数	のべ400人	<p>のべ625名 中止行事※があったが、目標を大きく上回った</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域協働フォーラム秋 120名 ・ しまね大交流会 70名 ・ 地域と高校生の未来を語る会 35名 ・ 埼玉県地域学校 WINWIN プロジェクトフォーラム 200名 ・ しまね探究フェスタ 200名 ・ 地域協働フォーラム春 ※中止 <p>今後は、保護者や卒業生会(暁星会)員の参加を呼びかける</p>
ワークショップへの参加者数	10人	<p>8人 (島根県立大学生7名、島根大学生1名)</p> <p>2・3回生を中心に誘ったが、思うように参加者が集まらなかった。1回生や4回生にも声をかける必要がある。</p>

<添付資料> 目標設定シート

9 次年度以降の課題及び改善点

- (1) カリキュラムについては、3年間の「基本形」と、それを支える体制の基礎をつくることのできた。次年度以降は、この「基本形」を元に、より生徒の主体性が発揮され、かつ地域の活性化にもつながる授業の構成を検討しなければならない。
- (2) カリキュラム開発専門家の外部視点を改善の手がかりとしながら、平田高校のカリキュラムの特徴や良さを明確にし、見える化して皆が共有することにより、目標を一にして学校と地域が協働できる体制作りを進める。
- (3) 各教科における「総合的な学習（探究）の時間」との横断的な授業の研究開発について、教科によっては「内容」の連携が難しいものがある。そこで、年度途中から「学び方」や「育成したい能力」の部分での連携も含めて横断的な取り組みを研究することにした。次年度以降も、どういう形の横断連携が可能かを研究していく必要がある。また、「学び方」や「育成したい能力」について教員間での意思疎通を図ることと、教員の挑戦意識を高めることを狙いとして、教員同士の授業見学や校内教員研修を充実させていく。
- (4) 「情報発信」で高校生が活躍できる場面が多くあり、地域の方からの期待も大きかった。地域の良さや強みなど「今ある地域資源」を高校生が主体的に発信していく場面を授業の中に多く取り入れ、観光客数や経済効果などとともに取り組みを検証する。本校や商工会議所のホームページも情報発信ツールとして活用し、生徒募集の面でも中学生とその保護者に本校の魅力が伝わるように工夫する。
- (5) 11月に行ったコミュニティデザイナー・山崎亮氏の講演会では、地元にお金を落とすことによる地域への経済効果と、資金が無くてもできる地域活性化の手法についてご教授いただいた。このように、学校および地域に新たな開発手法を取り入れていくためにも、地域活性化を最前線で行っている方々による学びの場づくりを続けていく。
- (6) 地域協働学習実施支援員（平田商工会議所の職員・ミッションコーディネーター）の業務負担が非常に大きい。支援員の負担軽減のために、教員やカリキュラム開発等専門家（カリキュラムドクター）との役割分担の明確化や、相談・連絡・報告の効率化を図る。

【担当者】

担当課	島根県教育庁教育指導課	TEL	0852-22-6428
氏名	立石 祥美	FAX	0852-22-6026
職名	調整監	e-mail	tateishi-hiromi@edu.pref.shimane.jp